

別府市障害のある人もない人も安心して安全に暮らせる条例

全会一致で可決



来年4月施行

市民の意見を活かした条例

9月20日別府市障害のある人もない人も安心して安全に暮らせる別府市条例が、全会一致で可決されました。来年4月1日施行となります。

障がい者への差別をなくすための条例制定は、市としてはさいたま市と八王子市に次ぎ全国3番目となります。

3年ほどかけてアンケート調査や作業部会やタウンミーティングで議論を重ね、市民自身の手で条例案を練り上げ意見を出し合っ作った別府市で初めての条例です。

えんど市議くり返し質問

日本共産党の猿渡（えんど）久子市議は、一般質問で6回にわたりこの条例について質問し、条例制定の意義などを主張してきました。

この条例については、当初今年6月市議会へ提案が予定されていましたが、さらに調査・研究を行う必要があるとして、厚生環境教育委員会が4回にわたる所管事務調査で議論してきました。えんど久子市議も委員として積極的に意見を述べました。委員会として以下の6項目の意見をまとめ、9月市議会での可決となりました。

厚生環境教育委員会の意見

1. 障がいのある人に対する事業を、より円滑に推進するため、庁内の体制整備に努めること。
2. 市民・民生委員・事業者等への理解、協力が得られるよう、十分な啓発に努めること。
3. 教育委員会との連携を密にし、「障がい」に対する理解を深めるため、教育現場の環境整備に努めること。
4. 障がいのある人（要援護者）の防災・減災対策を迅速かつ着実に行うこと。
5. 障がいのある人のまちづくり（道路整備等）に関する要望を、十分検証し、計画的な事業実施に努めること。
6. 親亡き後等の問題の解決にあたっては、障がいのある人の不安を解消するため、各団体・有識者の意見を聴き、あらゆる方策を活用し、きめ細かな対応に努めること。



日本共産党 別府市議団

げんきニュース

発行責任者 平野文活
別府市石垣西8-2-31
TEL0977-22-6576

No.573
2013.9.25.

日本共産党 平野・えんど両市議

厚労省など各省庁と話し合う



文部科学省と。30人学級、加配教員や養護教員の増員、特別支援学級の定数は現在1クラス8人だがせめて5～6人とすること、障害を持つ子どものための支援員の充実、教員のメンタルヘルス、代替教員の確保、エアコンの設置、などの問題について。

毎年上京し国会議員と共に

日本共産党別府市議団は、県会議員らと共に毎年上京し、政府各省庁に説明を求め話し合いの場を持ちます。

今年も8月28・29

日に日本共産党の赤嶺政賢衆議院議員と共に、政府調査活動を行ないました。衆議院第一会館で、9省庁90項目にわたり話し合いました。

高齢者は早く死ねというのか



えんど久子市議はフェイスブックに活動などをアップしています。友達になってください。

日本共産党市議団のHPや、えんど久子のHP「はっぴーえんどとねっと」をぜひご覧下さい。

介護保険の国の負担割合の引き上げについて、厚労省の見解を問うと、「国の厳しい財政状況を鑑みれば困難」というのです。

えんど市議は「厚労省は高齢者の財政状況や生活の実態は考慮しないのか。高齢者の生活実態は深刻だ。介護保険料は3年ごとにどんどん上がる。70歳～74歳の医療費

は2割にすると云うし、負担ばかりが増えて年金はますます下げる。生活保護も引き下げ扶養義務の強化も検討している。生存権にかかわる問題だ。

「高齢者は早く死ねと言わんばかり」と怒りの声が多い。厚労省は、高齢者や国民が安心して暮らせるようにするのが仕事ではないのか」と批判しました。